

1. 科目名 (単位数)	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5185
2. 授業担当教員	大島 朗生		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	<p>臨床心理査定演習 I では、臨床心理学において、必須の知識の 1 つである心理的アセスメントに関する理論と実践について学ぶ。心理査定の知識と技術の基礎の習得を目的とする。心理査定としては、1. 発達検査、2. ビネー式知能検査、3. ウェクスラー式知能検査、4. YG 性格検査、5. エゴグラム の 5 種類を取り上げる予定である。心理検査法の基礎的な事項 (理論や施行法) を身に付けるために演習を重視する。それぞれの検査について、1. 理論的背景、2. 実施方法、3. 結果の整理方法、4. 解釈方法、5. 利用上の注意点、6. 適応範囲と限界などを理解し、可能であれば実際にテスターとして施行できるようになることを目的とする。特に、心理の専門職として、実践における心理的アセスメントの意義について学び、心理的アセスメントに関する理論と方法を理解し、心理に関する相談、助言、指導等へ応用できるようなることを目指す。</p> <p>授業の進め方としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2. 心理検査の事例等に関して、グループディスカッションを行う 3. 実施した心理検査に関して、レポートを提出する <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1. 査定法の選び方、2. 環境の整え方、3. 結果のまとめ方、4. 効果を高める相談、助言、指導への応用の仕方 などについても検討する。</p>		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって、心理査定を施行する際の基礎的な技術を習得することを目指す。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>担当になった心理検査に関しては、心理検査の手引きなどを熟読し、実際に皆の前で施行できるように準備しておくこと。</p> <p>代表的な心理検査について、基礎的な知識が身につけていることを確認するためのレポート課題を課す。レポート課題は1回程度課す予定である。</p>		
10. 教科書・参考書 ・教材	<p>【教科書】 特に指定しない</p> <p>【参考書】 上里一郎 編 『心理アセスメントハンドブック 第2版』 西村書店 2001 松原達哉 編 『臨床心理アセスメント 新訂版』 丸善出版 2013 松原達哉・福島脩美 編 『カウンセリング心理学ハンドブック (下巻)』 金子書房 2011 氏原寛・亀口憲治・馬場禮子 他 『心理査定実践ハンドブック』 創元社 2006</p> <p>※必要に応じて適宜資料を配布するが、参考書として挙げた書籍の中から最低 1 冊は購入し、手元に置いて、必要に応じて参照するという習慣を身に付けてもらいたい。</p> <p>※心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費 (検査用紙代等) が必要になる。</p> <p>取り扱う心理検査の委細に関しては、開講時に改めて説明する。</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準 発達検査・知能検査の概要について説明できる 発達検査・知能検査の結果を読み取ることができる 質問紙法について説明できる 質問紙法の結果を読み取ることができる</p> <p>○評定の方法 授業態度・授業への参加度 70% 心理査定に関するレポート 30% 特に授業態度・授業への参加度を重視する</p>		
12. 受講生への メッセージ	心理検査に関する知識があるということは、心理臨床家にとって極めて重要な素養だと考えている。実際のところ、心理検査は「習うより慣れる」という要素が強い。初心者には、まず「手引きに書かれたように施行できること (真似ること)」が重要な学びになると考える。手引きや解説書を熟読して、積極的に学んでほしい。心理検査の実習を通じて、自分自身を再発見することを期待している。		
13. オフィスアワー	授業開講時に周知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～2. テーマ	臨床心理査定概論		
【学習の目標】	臨床心理査定について理解する。		
【学習の内容】	臨床心理査定が、心理臨床活動において必要な理由を学ぶ。		
【キーワード】	アセスメント、心理検査、心理療法		
【学習の課題】	心理査定の効用と限界について説明できるようになる。		
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック (下巻)』 pp.64-67		
3～5. テーマ	臨床心理査定の種類		

【学習の目標】	臨床心理査定で取り扱う心理検査について概観する。
【学習の内容】	主要な心理検査について概観する。
【キーワード】	心理検査法、観察法、面接法
【学習の課題】	主要な心理検査について説明できるようになる。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.68-71
6～7. テーマ	心理検査各論Ⅰ 発達検査
【学習の目標】	発達検査について理解する。
【学習の内容】	発達検査を体験する。
【キーワード】	遠城式発達検査、津守式乳幼児精神発達診断法、K式発達検査
【学習の課題】	発達検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.71-75
8～9. テーマ	心理検査各論Ⅱ ビネー式知能検査
【学習の目標】	ビネー式知能検査について理解する。
【学習の内容】	知能検査の歴史や開発の経緯、対象の違い等を理解する。
【キーワード】	知能の定義、個別式知能検査、IQ
【学習の課題】	ビネー式知能検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.81-83
10～11. テーマ	心理検査各論Ⅲ ウェクスラー式知能検査
【学習の目標】	ウェクスラー式知能検査について理解する。
【学習の内容】	ウェクスラー式知能検査を体験する。
【キーワード】	ディスレパシー、偏差IQ、下位検査
【学習の課題】	ウェクスラー式知能検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.83-87
12～13. テーマ	心理検査各論Ⅳ 質問紙法（YG性格検査）
【学習の目標】	YG性格検査について理解する。
【学習の内容】	YG性格検査を体験する。
【キーワード】	性格の測定、質問紙法、強制法
【学習の課題】	YG性格検査の施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.97-102
14～15. テーマ	心理検査各論Ⅴ 質問紙法（新版TEGⅡ）
【学習の目標】	新版TEGⅡについて理解する。
【学習の内容】	新版TEGⅡを体験する。
【キーワード】	交流分析、自我状態、標準化
【学習の課題】	新版TEGⅡの施行方法や採点の手順について理解する。
【参考文献】	『カウンセリング心理学ハンドブック（下巻）』 pp.125-128